

平成27年度～令和3年度

京都府オリンピック・パラリンピック教育推進事業

ACTION & LEGACY

～7年間のあゆみ < 実践報告書 >～

スポーツ庁委託

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業



京都府教育委員会

はじめに

京都府教育委員会では、平成27年度から東京大会を契機とした「京都府オリンピック・パラリンピック教育推進事業」を、スポーツ文化の広がり、共生社会の形成、国際的な視野を持ち、世界の平和に向けて貢献できる人材の育成に繋がることなどを目的に、府内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校を推進校に指定し、「オリパラについての学び」・「オリパラを通じた学び」を柱とした取組を実践してまいりました。

そして、各推進校での取組は、スポーツへの関心や競技力の向上はもとより、共生社会について実感し、理解を深めることに繋がっており、特にオリンピック・パラリンピアンとの交流は、児童生徒にとって生涯にわたる大きな財産となりました。

この度、本事業の7年間をテーマごとに振り返り、各推進校で実践された取組（ACTION）の成果が、将来に受け継がれる物事（LEGACY）として引き継がれるよう一冊に取りまとめました。これからも続くオリンピック・パラリンピックの価値を踏まえ、本事業の ACTION & LEGACY で得られた持続可能で多様な教育モデルが、府内各校で共有・活用されることにより、児童生徒の豊かな「スポーツごころ*」の醸成に繋がることを期待しています。

本事業に御協力を賜りました多くの関係の皆様方に感謝を申し上げ、巻頭の御挨拶といたします。

令和4年2月

京都府教育庁指導部保健体育課長

目 次

本事業の目的、概要	1
本事業の経緯	2
ACTION & LEGACY ～今後の取組について～	3
Ⅰ スポーツとのつながり.....	4
Ⅱ 共生社会へのつながり.....	6
Ⅲ スポーツへの関心向上・スポーツボランティアへの参画.....	8
Ⅳ 京都の伝統や文化の発信.....	9
書道部によるパフォーマンス.....	10
Ⅴ 国際交流・異文化等のつながり.....	11
本府推進校一覧・指定実績、オリパラメダル獲得数等.....	12
講師等一覧、本府の発行物.....	13

* 「スポーツごころ」とは、「感動」「楽しみ」「向上」「健康」「挑戦」「つながり」「公正」といった、人々が日々の生活の中で「よしっ!」「さあ!」「やってみよう!」という前向きで積極的な心のありようの総称です。京都府教育委員会では、「スポーツごころ」をテーマとしたスポーツ施策を総合的かつ計画的に推進しています。（参考：『京都府スポーツ推進計画（中間年改定）』（平成31年3月））

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業の目的

東京2020大会の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針（平成27年11月27日閣議決定）において、政府は「大会開催を契機に、オリンピック・パラリンピック教育の推進によるスポーツの価値や効果の再認識を通じ、国際的な視野を持って世界の平和に向けて貢献できる人材を育成する」ことを決定した。また、文部科学省およびスポーツ庁で組織された「オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議（平成27年2月～平成28年7月）」の最終報告では、全国的なオリンピック・パラリンピック教育の普及の意義として、以下の内容が提示されている。

スポーツの価値

- ◆スポーツは、精神的な充足感や楽しさ・喜びをもたらし、人々が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む基盤である。
- ◆スポーツには、自己充実・自己変革を促す力、社会や世界を変える大きな力がある。

オリンピック・パラリンピック教育の理念

◆オリンピックの3つの価値 <国際オリンピック委員会(IOC)>

1. Excellence (卓越)
2. Friendship (友情)
3. Respect (敬意・尊重)

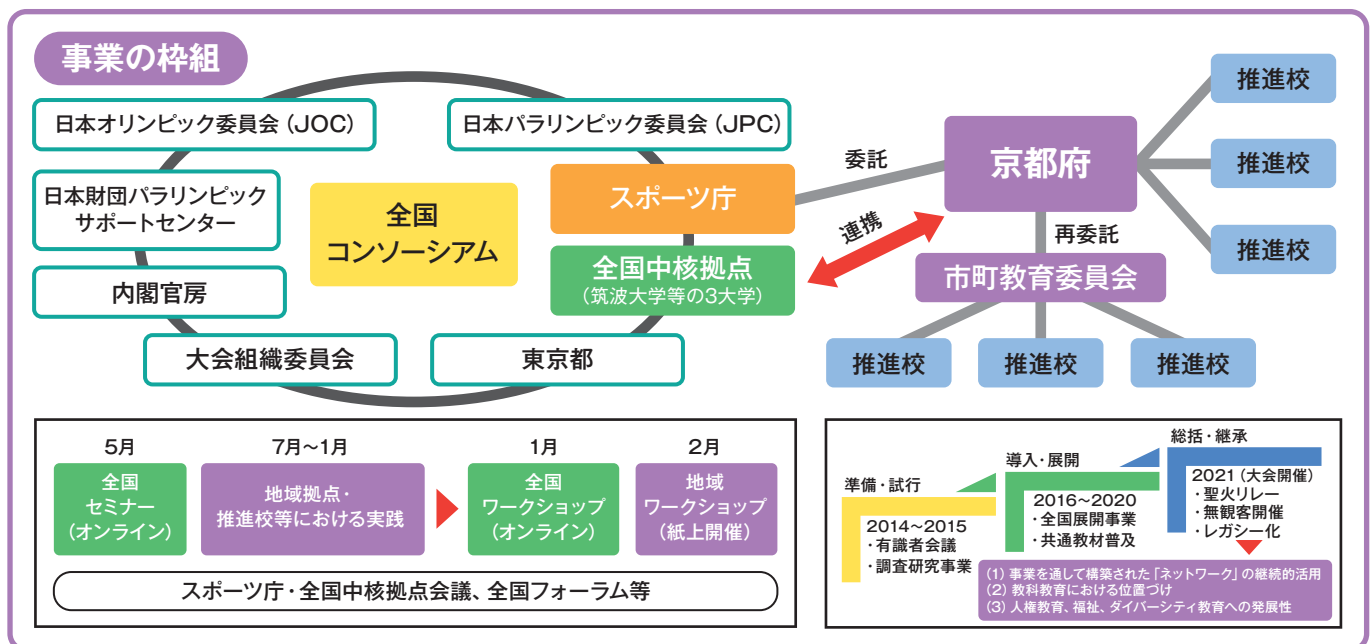
◆パラリンピックの4つの価値 <国際パラリンピック委員会(IPC)>

1. Courage (勇気)
2. Determination (決意)
3. Equality (平等)
4. Inspiration (インスピレーション・鼓舞)

オリンピック・パラリンピック教育の意義

スポーツの価値の再認識を通じ、国際的な視野を持って世界の平和に活躍できる人材を育成する。

本事業は、上記の内容をふまえ、全国中核拠点（京都府は筑波大学）と地域拠点（京都府教育委員会）が連携し、学校におけるオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを推進することを目的とするものである。



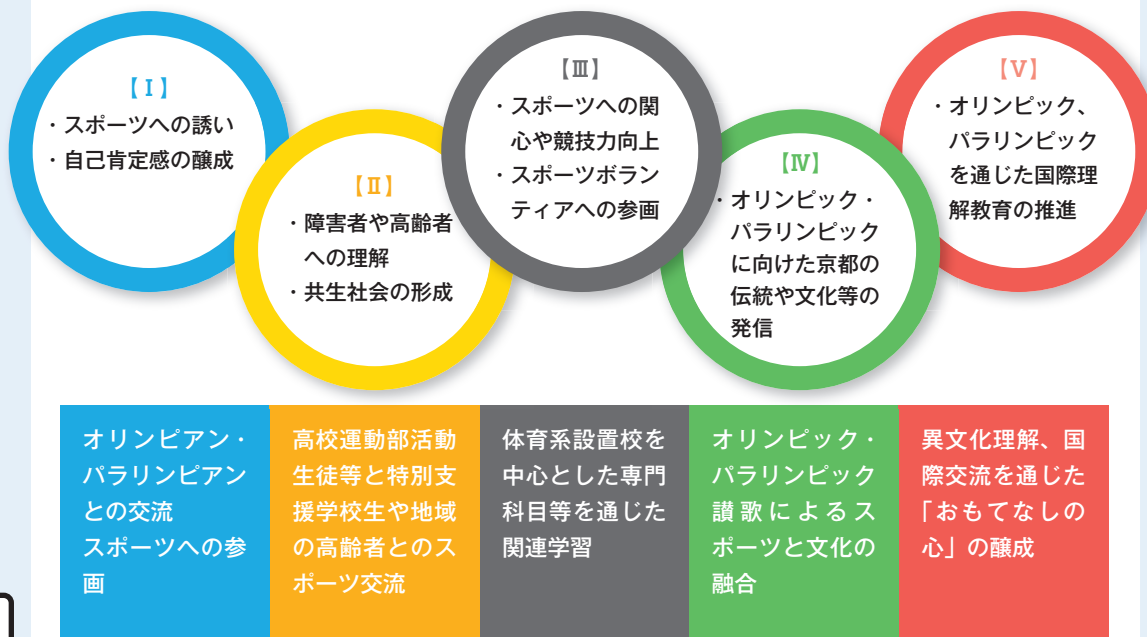
京都府のオリンピック・パラリンピック教育の5つの柱

- I スポーツとのつながり ～スポーツへの誘い、自己肯定感の醸成～
- II 共生社会へのつながり ～障害者や高齢者への理解、共生社会の形成～
- III スポーツへの関心向上・スポーツボランティアへの参画 ～スポーツへの関心や競技力向上、スポーツボランティアへの参画～
- IV 京都の伝統や文化の発信 ～オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信～
- V 国際交流・異文化等のつながり ～オリンピック・パラリンピックを通じた国際理解教育～

京都府におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進

オリンピック・パラリンピック教育の推進において、「スポーツの力」を実感させるとともに、一人一人に豊かな「スポーツどころ」を育み、スポーツ文化の広がりにつなげる。

2022年以降にスポーツ文化と共生社会形成のレガシーを繋げる。



2022
(R4)

- 事業概要のまとめ・報告書作成（2月）
- 事後ワークショップ【紙上開催】（2月）
- オリンピック・パラリンピック讃歌～書道部によるパフォーマンス～
- 事業開始（7月～）
- 推進校の指定（7月～）
- 推進校の公募（4月～）

2021
(R3)

スポーツ庁の委託により「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」を実施

2020
(R2)

スポーツ庁の委託により「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」を実施

2019
(R元)

スポーツ庁の委託により「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」を実施

2018
(H30)

スポーツ庁の委託により「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」を実施

2017
(H29)

スポーツ庁の委託により「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」を実施

2016
(H28)

筑波大学の委託により「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」を実施

2015
(H27)

筑波大学の委託により「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント調査研究事業」を実施

公開フォーラムの開催や推進校の取組紹介等で広く府民に発信する等、広報活動を推進

ACTION & LEGACY ～今後の取組について～

Ⅱ 共生社会へのつながり

- 「スポーツを通して、特別支援学校と小・中・高校のつながりを深めたい。」
- 「スポーツを通して、一人一人が対等な関係を結ぶきっかけを作りたい。」
- 「ユニバーサルデザインについて調べたい。」
- 「パラ競技を体験したり、パラ選手と一緒にスポーツがしたい。」
- 「すべての人が、一緒に楽しんでスポーツできるような社会にしたい。」

Ⅲ スポーツへの関心向上・スポーツボランティアへの参画

- 「私もオリパラに出場したい。」
- 「トップアスリートの競技に対する思いを知り、競技に対しての意識が変わった。」
- 「選手の活動を陰で支える役割について学び、そういう仕事に就きたいと思った。」
- 「メダリストからの話をもっと聞きたい。」
- 「スポーツ大会のボランティアとして参加し、選手をサポートしたい。」

Ⅰ スポーツとのつながり

- 「もっと新しいスポーツに挑戦、できるようになりたい。」
- 「仲間と楽しんでスポーツをしたい。」
- 「これからもずっとスポーツを続けていきたい。」
- 「地域で盛んなスポーツに取り組みたい。」
- 「取り組んできたスポーツの歴史を知り、もっとそのスポーツを好きになりたい。」

こんな気持ちになれたよ！



Ⅳ 京都の伝統や文化の発信

- 「スポーツに対する気持ちを演劇、演奏、歌唱、短歌、ダンスなどで表現してみたい。」
- 「コロナ禍でも、競技に打ち込む仲間にエールを送り、見ている人を感動させるパフォーマンスをしたい。」
- 「日本や京都の伝統・文化について、もっと知りたい。」
- 「日本や京都のことをもっと海外に伝えたい。」

Ⅴ 国際交流・異文化等のつながり

- 「外国人留学生と話して、その文化について交流したい。」
- 「オリパラ開催国の有名な食べ物について調べたい。」
- 「オリパラ選手の出身国の食べ物を味わいたい。」
- 「おもてなしの心について学んだり、国際的なマナーを身につけたい。」
- 「地域の清掃活動に参加し、誰もが住みやすいきれいな街にしたい。」

スポーツ文化と共生社会形成のレガシーを豊かな「スポーツごころ」に繋げるために

体育科・保健体育科の充実

- ◆実技指導におけるオリパラを活用した社会性の育成
- ◆教材としてのパラスポーツの活用
- ◆「体育理論」の充実 等

多様な講師との連携

- ◆アスリートとの交流や支える役割を学ぶ講師との連携
- ◆地域振興や地元スポーツチーム等との連携
- ◆遠隔地と結ぶICTを活用した新しい連携 等

実施しやすいオリパラ教育の充実

- ◆総合的な学習・探究の時間、道徳、特別活動等での活用
- ◆食育、学校給食での活用
- ◆運動会・体育祭でのオリパラの活用
- ◆人権教育、キャリア教育、SDGsに関する学習等と関連付け 等

京都府教育委員会では、オリンピック・パラリンピック教育で培ったレガシーを、これからも続くオリンピック・パラリンピックの価値を踏まえ、持続可能で多様な教育モデルとして推進し、児童生徒の豊かな「スポーツごころ」を育みます。

I スポーツとのつながり

概 要

オリンピック・パラリンピックの 学びから

オリンピック・パラリンピックの意義や歴史に関して、視聴覚教材での学習、プレゼンテーションや新聞作成に向けた調べ学習を実施する。

特別支援学校におけるスポーツ への誘い、地域との交流

特別支援学校生がパラスポーツに触れる機会を創出する。

地域と関わり、生涯にわたる豊かなスポーツライフへの広がりを目指す。

トップアスリートとの出会い

「ほんもの」との出会いから、心に直接響く機会を演出する。

「よし、さあ、やってみよう！」という「スポーツごころ」を育成し、自己肯定感を醸成する。

児童生徒を通じた家庭でのリバースエデュケーションを期待する。

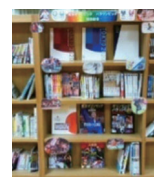


令和3年度の取組



- ・聖火リレーコースや出場国、ピクトグラムについて調べることで、日本の国土や世界の国々、また競技への興味が深化した。
- ・各競技や注目選手についての調べ学習を通して、競技の魅力を発見するとともに、紹介された新聞を通じて、オリンピック・パラリンピック開催に向けた興味関心が向上した。

- ・オリンピック・パラリンピック啓発資料や書籍を展示することで、歴史や理念、競技の魅力、エピソードなどについて触れる機会を創出した。
- ・競技を通して人との関わり方を学び、互いに尊重し合い協力・共同することの大切さを理解した。



〈トップアスリートの金言〉

「辛い時、苦しい時に自分のためだけでなく周りの人のために頑張ること」(重量挙げ：八木かなえ氏)、「努力はいつ報われるか分からないが、必ず報われる」
「小さな積み重ねが大きな成果を生む」
「楽しむ心と感謝の気持ちを忘れない」(自転車：栗村修氏)、「夢を叶えるためには何をしなければならないかを考え、それを今すぐ実践すること」(体操：寺本明日香氏)、「できないことは人以上に練習する」
「勇気を振り絞って挑戦する」(パラ陸上競技：山崎晃裕氏)、「目標は変えても、夢は変えない」
「障がい者を助けるのではなく、困っている人を助ける」(パラアーチェリー：上山友裕氏)



令和2年度の取組

- ・プレゼンテーションや新聞作成等に向けた調べ学習等を実施し、オリンピック・パラリンピックの価値や「東京2020大会」開催への機運を醸成した。
- ・パラリンピックサポートセンターによるオンライン版「あすチャレ！ジュニアアカデミー」でのワークショップ型オンライン授業を実施した。
- ・特別支援学校生が地域の方々とパラリンピック競技等と一緒にいき、お互いに理解を深めた。



令和元年度の取組

- ・オリンピック・パラリンピックの歴史等の学習に、スポーツ庁の指導参考映像資料DVDを活用した。
- ・特別支援学校生が地域の小学校でフロアバレーボールやボッチャ等のスポーツ指導を実施した。



平成30年度の取組

- ・パラリンピックをテーマに英語でワークショップを実施した。
- ・特別支援学校の中等部・高等部の生徒を中心に、ボッチャ交流大会を開催した。



平成29年度の取組

- ・東京オリンピックをイメージした集団演技を創作した。
- ・全校朝礼で調べ学習の成果発表会を実施した。
- ・ゴールボールのパラリンピック日本代表合宿を見学した。



平成28年度の取組

- ・講演、実技講習会、日本代表の練習見学等でオリンピック・パラリンピアンなどトップアスリートや日本代表監督と交流した。
- ・ベルリン五輪「友情のメダル」の母校同士の生徒が交流した。
- ・ボッチャの教員対象講習会やPTA対象体験会を実施した。



平成27年度の取組

- ・トップアスリートと一緒に走る校内マラソン大会を実施した。
- ・高校生と特別支援学校生による水泳交流会を実施した。
- ・車いすバスケットボールチームや車いすフェンシング選手との実技体験や簡易試合等の交流を行った。



「女性スポーツフォーラム」

○基調講演「女性アスリートとスポーツをサポートする人たちへ」

田中ウルヴェ京氏（ソウル五輪シンクロ競技代表）

○シンポジウム

コーディネーター：川原貴氏（国立スポーツ科学センター長）

パネリスト：田中ウルヴェ京氏（ソウル五輪銅メダリスト）、大村加奈子氏（アテネ・北京五輪出場：バレーボール）、藤原秀規氏（仁川アジア大会水球女子監督：水泳）、水野加余子氏（京都女性スポーツの会会長：テニス）、河合美香氏（龍谷大学准教授：スポーツと食の研究）、甲村弘子氏（こうむら女性クリニック院長）、柏木麻希氏（アジアジュニア優勝・日本高校記録保持者：ウエイトリフティング）



Ⅱ 共生社会へのつながり

概 要

パラリンピック種目等の多様な競技に触れる

「パラリンピックやパラスポーツ等への興味関心の向上」「共生社会の在り方についての創造」等をねらいとする。

小中高生と特別支援学校生とのスポーツ等の交流

パラスポーツの交流を通して、多くの人とスポーツを楽しむ経験をし、積極的に人とかわかることでコミュニケーション力を培う。

世代を越えたスポーツ交流

地域の方とスポーツ交流を通して、インクルーシブ社会への参画に対する意識を高める。



令和3年度の実践

- ・ 外部講師による特別講義を受け、障がい者の目線からパラスポーツを学んだ。また、一緒に実技を実践することで、ユニバーサルデザインの視点を育み、パラスポーツへの理解を深めた。
- ・ 特別支援学校と地域の中学校が、交流や共同学習など合同イベントを実施し、ボッチャや卓球バレー、フライングディスク（アキュラシー）等を一緒に行った。



- ・ パラリンピック競技を通して人との関わり方を学び、互いに尊重し合い協力することの大切さを理解した。
- ・ パラリンピアンからの直接の指導や交流を通して、スポーツから「夢」「希望」を持つことができた。



- ・ これまでの各校間の交流をきっかけに、高校と特別支援学校合同による交流ソフトボール大会を開催した。ソフトボールを通して相互理解を深め、社会性や協調性を育み、共生社会の推進を目指すことができた。

令和2年度の取組

- ・小学校、中学校、高校において、パラリンピック種目をはじめとしたアダプテッド・スポーツ等、障がいの有無等にかかわらず、誰もが共に楽しめる多様な競技に挑戦した。
- ・高校生と特別支援学校生がオンラインで交流会を実施し、ジェスチャーゲーム等で交流を深めた。



令和元年度の取組

- ・高校生が、高齢者や保育園児、小学生、中学生、保護者等に、「体操教室」を実施した。幅広い世代が一堂に会し、高校生がリードしながらスポーツによる地域創生を推進した。



平成30年度の取組

- ・高校生と特別支援学校生との交流が、より充実するとともに、多くの学校に広がった。
- ・高校生が地域の小学校を訪問してスポーツを指導した。自分の持つ知識や思いを伝える中で、改めてスポーツの楽しさや奥深さに気付くことができた。



平成29年度の取組

- ・高校生が地域の小学校を訪問し、体づくり運動等を指導したり、運動会で競技のボランティアを行うなど、世代を越えたスポーツの繋がりを図ることができた。



平成28年度の取組

- ・高校生が盲学校を訪問し、視聴覚障がい者の手引き歩行訓練を実施した。障害のある人の困難さを体験し、共生社会を実現させるために自分たちに何ができるかを考えるきっかけとなった。
- ・高校生が地元高齢者と協力して小学生対象スポーツ教室「昔遊び」を開催し、スポーツを通じた三世代交流を図った。



平成27年度の取組

- ・高校生が地域の小学校を訪問し「走り方教室」を実施した。
- ・高校生のレスリング部が、ダウン症児者の自立や社会性の育成もねらいとして、肌が触れ合う競技を共に行う中で交流を深めた。密接な絆をつくるとともに、心身のすこやかな発達を目指した。



Ⅲ スポーツへの関心向上・スポーツボランティアへの参画

概 要

体育系設置高校を中心に、 アスリート等による講演や実技指導

普通科スポーツ総合専攻及びスポーツ健康科学科設置高校において、競技への関心をより高め、競技力の向上を図るとともに、スポーツを通してグローバルな活躍ができる人材を育成すること等をねらいとして、トップアスリートによる講演や実技指導を実施する。

スポーツを「支える」 視点からの「出会い」

スポーツを「支える」役割について、様々な視点から考える機会を創出する。

令和3年度の取組

- ・体育系設置校合同講演会における東京オリンピック陸上競技「競歩」銅メダリストの山西利和氏の講演を通じ、自分自身と専門種目の向き合い方など、目標を達成することの大切さや素晴らしさを学んだ。



令和2年度の取組

- ・体育系設置校合同講演会における北京オリンピック陸上競技「4×100mリレー」銀メダリストの高平慎士氏の講演を通じ、スポーツの価値や意義、スポーツとの関わり方を学んだ。
- ・視覚障害者を支えるガイドランナー体験を通して、様々な視点からスポーツを支える役割について学んだ。



令和元年度の取組

- ・日本オリンピック委員会マーケティング担当者の講演を通じ、スポーツが社会にもたらす効果について学んだ。
- ・高校生が、地域の小学校でスポーツ指導や運動会の運営をサポートし、スポーツを「支える」価値や意義について体験を通して学んだ。



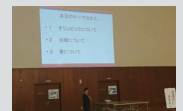
平成30年度の取組

- ・体育系設置校合同研究発表会の会場に、各校がオリンピック・パラリンピック教育の取組をまとめたパネル展示を行い、成果を共有した。



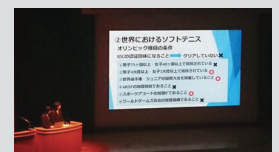
平成29年度の取組

- ・体育系設置校合同講演会における体育系設置校卒業生のオリンピックからの講演を通じ、先輩の経験談等から自分の「今」と「将来」を考えた。



平成28年度の取組

- ・体育系設置校合同研究発表会における運動やスポーツをテーマとした研究発表の取組は、自らの経験を踏まえ多様な視点から競技力の向上やスポーツの在り方について考える貴重な機会となった。



平成27年度の取組

- ・「オリンピックと最先端スポーツ科学」をテーマに、有識者による講義、実習を行い、競技力の向上に貢献する人材の育成を図った。
- ・体育系設置校にゆかりのオリンピックやトップアスリートをパネリストに迎え「2020東京に向けてスポーツの楽しさを考える」をテーマにシンポジウムを開催した。



Ⅳ 京都の伝統や文化の発信

京都府高校生短歌コンクール「オリンピック・パラリンピック讃歌」

現代短歌の創作を通じた、京都ならではのスポーツと文化の融合



オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典であるとともに文化の祭典でもある。2020年に開催予定だった東京大会は、新型コロナウイルス感染症拡大により2021年に延期されたが、大会の成功に向けた気運を醸成し、京都からスポーツと文化を融合させた取組を全国に発信するため、府教育委員会では、スポーツを「する」「みる」「支える」の観点から表現した『短歌』を広く京都府内の高等学校・特別支援学校（高等部）の生徒から募集した。

平成27年度から令和2年度までの取組で、のべ15,200名、25,005首の応募があり、細胞生物学研究者で、京都大学特任教授でもある歌人の永田紅氏により最優秀・優秀・佳作の入賞作品を選考していただいた。

最優秀作品

【令和2年度】 悔しくて負けたくなくて勝ちたくても勝てなくて強くなってく	京都府立洛北高等学校 三宅 杏奈
【令和元年度】 おかしいなライバルだったはずなのに君のことを応援している	京都府立洛北高等学校 宮崎 夏穂
【平成30年度】 グランドで大きく息を吐く君の白い息だけ切り取る二月	京都府立洛北高等学校 阪口 歩
【平成29年度】 選ばれたライバルを応援することは技術の上達よりも難しい	京都府立鳥羽高等学校 山田 若菜
【平成28年度】 スポーツの授業の後の掃除時間みんながうユニフォーム着て	京都府立鳥羽高等学校 上田 里湖
【平成27年度】 笛が鳴りコートに駆け出す足音を近くて遠い ^{ベンチ} 此处から聴く	京都市立紫野高等学校 倉田 栞里

平成28年度府民対象イベント「教育レガシー共創フォーラム2016 in 京都」

- 創作和歌の披講（講評 冷泉貴実子氏）
- 創作短歌の発表（講評 永田 紅氏）
- 基調講演「オリンピックと文化」真田 久氏（筑波大学教授）
- トークショー「より美しく～スポーツと表現力～」
石黒由美子氏（北京五輪シンクロ競技代表）



平成28・29年度「オリンピック・パラリンピック教育推進事業」公開フォーラム

- 創作和歌の披講（講評 冷泉貴実子氏）
- 創作短歌の発表（講評 永田 紅氏）
- トークショー
 - （平成28年度）青木 愛氏（北京五輪シンクロ競技代表）
 - （平成29年度）齋藤 里香氏（北京五輪ウェイトリフティング競技代表）
 - 櫻井 杏理氏（東京パラ車いすフェンシング競技代表）



オリンピック・パラリンピック讃歌～書道部によるパフォーマンス～

現代短歌の創作を通した、京都ならではのスポーツと文化の融合

令和3年度のオリンピック・パラリンピック讃歌は、短歌コンクールのこれまでの最優秀作品を題材として、府立高等学校書道部による書道パフォーマンス動画と掛軸作品を募集した。

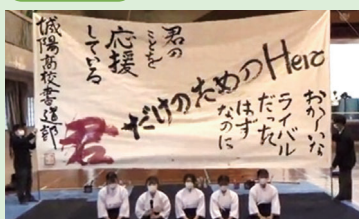
〈パフォーマンスの部〉

R2 作品



京都八幡高等学校

R 元作品



城陽高等学校

H30 作品



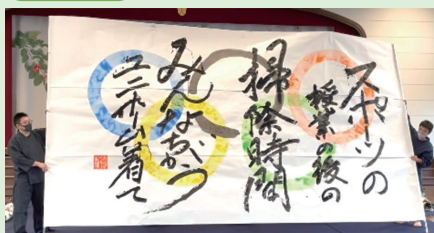
洛北高等学校

H29 作品



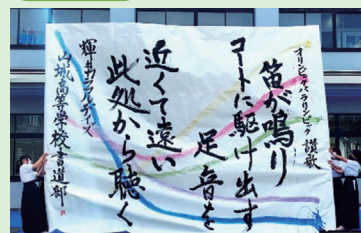
洛西高等学校

H28 作品



鴨沂高等学校

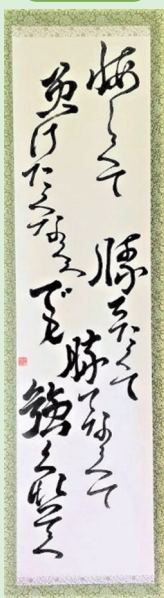
H27 作品



山城高等学校

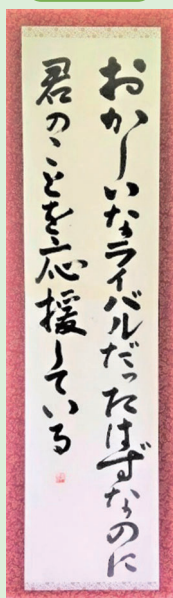
〈掛軸の部〉

R2 作品



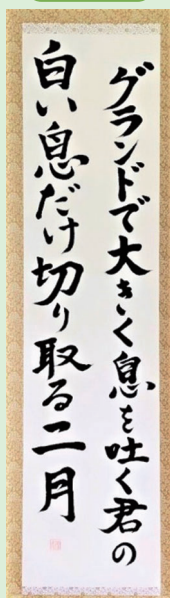
京都八幡高等学校

R 元作品



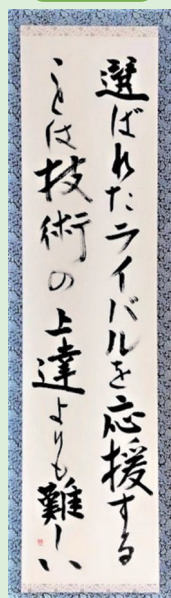
城陽高等学校

H30 作品



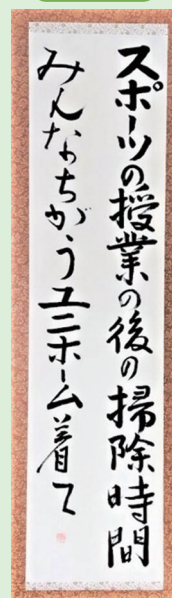
洛北高等学校

H29 作品



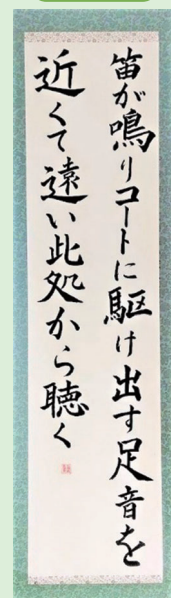
山城高等学校

H28 作品



鳥羽高等学校

H27 作品



洛水高等学校

V 国際交流・異文化等とのつながり

概 要

国際交流や相互の文化とのふれあい

「より良い国際交流、文化発信、ホスピタリティの在り方について考えること」等をねらいとする。

ホストタウンの中高生の学び

「他国の異文化を理解し、日本文化として誇れるおもてなしの心等を学ぶこと」等をねらいとする。

令和3年度の取組

- ・高校生が地域の中学生にホストタウン関係競技を指導し、ホストタウンとしての機運を醸成に繋がった。
- ・スペイン、ポルトガルのカヌーオリンピック代表チームの練習を間近で見学することで、大会にかけの気迫に刺激を受けるなど、スポーツの力を体感した。



令和2年度の取組

- ・フランスの姉妹校とのメッセージスライドによる文化交流を通して、世界同時のコロナ禍にあって、文化や尊重・勇気などの価値を改めて共有し励まし合い、絆を深めた。
- ・オーストラリアの姉妹校とのビデオメッセージ交流を通して、スポーツ・文化の理解や異文化を尊重し受容することの大切さを学んだ。

3-3 15番
クリスマスの京都駅です
京都タワーが
光っていたよ
フランスにも
イルミネーションは
ありますか？
フランスに
行ってみたいです！
お返事待ってます！



令和元年度の取組

- ・地域スポーツ大会運営や地域清掃活動を通して、達成感や自己肯定感を培い、ボランティア精神を育成した。



平成30年度の取組

- ・高校生がホストタウン関係競技を体験することで、スポーツや文化・芸術を振興し、郷土への愛着と誇りを醸成することに繋がった。
- ・小学生が「イングリッシュアドベンチャー」として、海外からの旅行客にインタビューを実施したり、高校生が自校周辺の日本語・英語のガイドマップを作成して留学生にガイドしたりするなど、積極的な交流を図った。



平成29年度の取組

- ・元キャビンアテンダントを講師に招き、「おもてなし」をキーワードにコミュニケーションの心がけについて学んだ。



平成28年度の取組

- ・オリンピック・パラリンピック開催国の料理及我が国の郷土料理を給食で提供するとともに、給食時間の放送や掲示物の展示等により「食」をはじめとした文化を学んだ。



平成27年度の取組

- ・海外からの留学生を招き、外国の文化や生活習慣等を体験した。
- ・青年海外協力隊OB・OGを招き、世界の現状と国際貢献の在り方について学習した。



京都府オリンピック・パラリンピック教育推進校一覧（60校）

◆小学校（10校）

城陽市立久津川小学校
城陽市立寺田小学校
城陽市立青谷小学校
城陽市立古川小学校
京田辺市立新小学校
木津川市立相楽小学校
木津川市立木津川台小学校
木津川市立上狛小学校
井手町立井手小学校
井手町立多賀小学校

◆高等学校（25校）

京都府立鴨沂高等学校
京都府立洛北高等学校
京都府立鳥羽高等学校
京都府立北嵯峨高等学校
京都府立北桑田高等学校
京都府立桃山高等学校
京都府立東稜高等学校
京都府立洛水高等学校
京都府立京都すばる高等学校
京都府立乙訓高等学校
京都府立西乙訓高等学校
京都府立菟道高等学校
京都府立城陽高等学校
京都府立西城陽高等学校
京都府立京都八幡高等学校
京都府立久御山高等学校
京都府立田辺高等学校
京都府立亀岡高等学校
京都府立南丹高等学校
京都府立須知高等学校
京都府立綾部高等学校
京都府立西舞鶴高等学校
京都府立加悦谷高等学校
京都府立網野高等学校
京都府立久美浜高等学校

◆中学校（14校）

大山崎町立大山崎中学校
木津川市立山城中学校
井手町立泉ヶ丘中学校
亀岡市立南桑中学校
南丹市立園部中学校
京丹波町立蒲生野中学校
京丹波町立和知中学校
京丹波町立瑞穂中学校
綾部市立綾部中学校
福知山市立南陵中学校
舞鶴市立白糸中学校
舞鶴市立城南中学校
宮津市立宮津中学校
宮津市立栗田中学校

◆特別支援学校（11校）

京都府立盲学校
京都府立聾学校
京都府立向日が丘支援学校
京都府立宇治支援学校
京都府立城陽支援学校
京都府立八幡支援学校
京都府立南山城支援学校
京都府立丹波支援学校
京都府立中丹支援学校
京都府立舞鶴支援学校
京都府立与謝の海支援学校

※●黄字は平成27年度からの推進校
●青字は平成28年度からの推進校
●黒字は平成29年度からの推進校
●緑字は平成30年度からの推進校
（◆印の2校は再指定、他は新規指定）
●赤字は令和元年度からの推進校
※京都市立除く

京都府オリンピック・パラリンピック教育推進校の指定実績

校種	年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
小学校		4校	5校	4校	7校	10校	10校	10校
中学校		6校	13校	9校	11校	10校	9校	9校
高等学校		14校	20校	21校	23校	24校	24校	24校
特別支援学校		7校	11校	11校	11校	11校	11校	11校
合 計		31校 (京都市立8校含む)	49校	45校	52校	55校	54校	54校

オリンピック・パラリンピックのメダル獲得数及び入賞数の推移

オリンピック競技大会におけるメダル獲得数及び入賞数の推移

■ 夏季オリンピック競技大会

開催年	開催都市（国）	メダル獲得数				4位・8位	入賞数
		金	銀	銅	小計		
2021	東京（日本）	27	14	17	58	78	136
2016	リオデジャネイロ（ブラジル）	12	8	21	41	47	88
2012	ロンドン（英国）	7	14	17	38	44	82
2008	北京（中国）	9	6	10	25	53	78
2004	アテネ（ギリシャ）	16	9	12	37	40	77
2000	シドニー（オーストラリア）	5	8	5	18	42	60
1964	東京（日本）	16	5	8	29	36	65

■ 冬季オリンピック競技大会

開催年	開催都市（国）	メダル獲得数				4位・8位	入賞数
		金	銀	銅	小計		
2018	平昌（韓国）	4	5	4	13	30	43
2014	ソチ（ロシア）	1	4	3	8	20	28
2010	バンクーバー（カナダ）	0	3	2	5	22	27
2006	トリノ（イタリア）	1	0	0	1	20	21
2002	ソルトレイクシティ（米国）	0	1	1	2	25	27
1998	長野（日本）	5	1	4	10	23	33

2020東京オリンピック

・日本選手団の金メダル数（27個）、総メダル数（58個）は、ともに過去最多を更新
・これまでメダル獲得がなかった12種目で初のメダルなど、**メダル獲得競技・種目に広がり**
・日本史上最年少13歳の新メダリスト誕生など**若い世代の活躍**（10代のメダリストは8名）
・女子種目で過去最多14個の金メダルを含む30個のメダル獲得
・**入賞数（4位～8位）が大幅増**（近年40～50程度→東京2020では78）

パラリンピック競技大会におけるメダル獲得数及び入賞数の推移

■ 夏季パラリンピック競技大会

開催年	開催都市（国）	メダル獲得数				4位・8位	入賞数
		金	銀	銅	小計		
2021	東京（日本）	13	15	23	51	107	158
2016	リオデジャネイロ（ブラジル）	0	10	14	24	73	97
2012	ロンドン（イギリス）	5	5	6	16	70	86
2008	北京（中国）	5	14	8	27	79	106
2004	アテネ（ギリシャ）	17	15	20	52	72	124
1964	東京（日本）	1	5	4	10	—	—

■ 冬季パラリンピック競技大会

開催年	開催都市（国）	メダル獲得数				4位・8位	入賞数
		金	銀	銅	小計		
2018	平昌（韓国）	3	4	3	10	13	23
2014	ソチ（ロシア）	3	1	2	6	20	26
2010	バンクーバー（カナダ）	3	3	5	11	18	29
2006	トリノ（イタリア）	2	5	2	9	16	25
2002	ソルトレイクシティ（米国）	0	0	3	3	32	35
1998	長野（日本）	12	16	13	41	68	109

2020東京パラリンピック

・日本選手団は、金メダル13個を含む、51個のメダルを獲得。総メダル数は、アテネ大会に次ぐ過去2番目の多さ
・日本代表が**数々の記録更新**
▶世界新記録：1種目
▶パラリンピック新記録：5種目
▶アジア新記録：4種目 等
・**幅広い世代の活躍**
▶パラ日本代表 史上最年少14歳メダリスト誕生
▶史上最年長50歳メダリスト誕生 等
・女子種目で4大会ぶり2桁台の16個のメダル獲得
・**入賞数（4位～8位）も大幅増**（近年70前後→今回107）

講師等一覧

※敬称略

※講師等として招聘した時点での役職・経歴を記載

青木愛（シンクロナイズドスイミング オリンピアン）、青木好子（京都先端科学大学教授 健康スポーツ）、赤倉幸恵（シットティングバレーボール 日本代表）、秋本真吾（スプリントコーチ）、朝原宣治（陸上競技 オリンピアン）、東武志（車いすバスケットボール）、荒賀龍太郎（空手 オリンピアン）、安昌林（柔道韓国代表選手）、飯塚翔太（陸上競技 オリンピアン）、猪飼聡（水泳 パラ代表監督）、井川善博（京都障害者スポーツ振興会）、池田信太郎（バドミントン オリンピアン）、池端花奈恵（フェンシング オリンピアン）、石黒由美子（アーティスティックスイミング オリンピアン）、糸賀亨弥（Wheelchair Football Japan 代表理事）、稲葉将（馬術 パラリンピアン）、井内菜津美（陸上競技 アジアパラ日本代表）、一柳武男（バスケットボール日本代表アスレチックトレーナー）、岩尾幸美（ホッケー オリンピアン）、岩田稔（プロ野球）、伊吹祐輔（日本財団パラサポセンター 推進戦略部プロジェクトリーダー）、今井紋加（パラ卓球）、岩野博（車いすバスケットボール パラリンピアン）、上田藍（トライアスロン オリンピアン）、上山友裕（アーチェリー パラリンピアン）、右代啓祐（陸上競技 オリンピアン）、江上いずみ（筑波大学大学院客員教授 グローバルマナー）、江里口匡史（陸上競技 オリンピアン）、オイオイ（手話エンターテイメント集団）、近江望（青年海外協力隊経験者）、大島祐哉（卓球 日本代表）、大槻浩二（陸上競技 アジアパラ日本代表）、大村加奈子（バレーボール オリンピアン）、大山加奈（バレーボール オリンピアン）、岡本直輝（立命館大学教授 スポーツ健康科学）、奥野史子（シンクロナイズドスイミング オリンピアン）、小野誠治（卓球 日本代表）、隠地勝宏（車いすバスケットボール）、カクテル（車いすバスケットボールチーム）、片岡正教（日本ボッチャ協会事務局長）、刀谷誠（日本ボッチャ協会）、金村祐美子（カヌー オリンピアン）、鎌田 孝幸（京都ゴールボール協会）、河合純一（水泳 パラリンピアン）、川上芳則（車いすバスケットボールチームコーチ）、寒川進（陸上競技 パラリンピアン）、神島基代子（NPO 法人京都でこいランド 社会福祉）、小崎良子（陸上競技 オリンピアン）、木谷真紀子（同志社大学准教授 国際交流）、木村祐子（帝塚山大学准教授 スポーツ栄養学）、京都UPS（車いすバスケットボールチーム）、京都おたべず（シットティングバレーボールチーム）、北田千尋・北間 優衣（車いすバスケットボール パラリンピアン）、楠本繁生（ハンドボール U 24 日本代表監督）、久保賢志（志学館大学助教 スポーツ社会学）、久保大樹（水泳・競泳 アジアパラ日本代表）、栗村 修（自転車ツアー・オブ・ジャパン大会ディレクター）、小島則子（射撃 日本代表）、小西達也（柔道整備師）、小林幸一郎（パラクライミング 日本代表）、小林千紗（水泳・シンクロ オリンピアン）、小林春彦（作家・コラムニスト 福祉関連）、小林祐梨子（陸上競技 オリンピアン）、小松崎敏（京都教育大学准教授 体育科教育）、小山宏之（京都教育大学准教授 スポーツ科学）、近藤俊樹（車いすバスケットボール）、齋藤里香（ウエイトリフティング オリンピアン）、阪根泰子（車いすバスケットボール パラリンピアン）、坂野晴男（車いすバスケットボール パラリンピック代表コーチ）、佐久間和彦（陸上競技指導者）、櫻井杏理（車いすフェンシング パラリンピアン）、佐藤真太郎（ボブスレー オリンピアン）、佐藤弘樹（エフエム京都パーソナリティ）、佐藤光浩（陸上競技 オリンピアン）、佐野優子（バレーボール オリンピアン）、志水見千子（陸上競技 オリンピアン）、下稲葉耕己（日本知的障がい者陸上競技連盟強化ディレクター）、下川真良（朝日大学ハンドボール部監督）、舍利弗学（ハンドボール日本代表コーチ）、神保康広（車いすバスケットボール パラリンピアン）、鈴木徹（陸上競技 パラリンピアン）、関口久志（京都教育大学教授 ジェンダー）、千田健太（フェンシング オリンピアン）、田上健一（プロ野球）、高岡寿成（陸上競技 オリンピアン）、高木英樹（筑波大学教授 スポーツ科学）、高瀬慧（陸上競技 オリンピアン）、高谷惣亮（レスリング オリンピアン）、高平慎士（陸上競技 オリンピアン）、多川知希（陸上競技 パラリンピアン）、武井きょうすけ（自転車 指導者）、竹井昂司（水球 オリンピアン）、竹下佳江（バレーボール オリンピアン）、竹田正樹（同志社大学教授 スポーツ健康科学）、辰巳博実（カヌー パラリンピアン）、田中孝洋（ボッチャ指導）、田本博子（ソフトボール オリンピアン）、塚脇康宏（城陽市ボッチャ協会）、寺坂義彦（中国閩江大学 国際交流）、寺田真紀（ジュールゲード国際高校教員 国際交流）、寺本明日香（体操競技 オリンピアン）、戸田雄也（パラパワーリフティング 日本代表）、富田圭造（シットティングバレーボール 日本代表コーチ）、富田洋之（体操競技 オリンピアン）、永井祐司（ホッケー オリンピアン）、一谷麻実・一谷奈歩・山下留衣（ホッケー 東京オリンピッククーターゲットエッジ代表候補）、永尾嘉章（陸上競技 パラリンピアン）、中川未由希（ホッケー オリンピアン）、中嶋明子（パラカヌー 日本代表）、中田有紀（陸上競技 オリンピアン）、中谷豪美（陸上競技パラリンピアン和田伸也選手の練習パートナー）、中村珍晴（アメリカンフットボール指導者）、中村展山（華道家）、中村仁美（華道家）、中村真里（日本ホッケー協会女子強化委員長）、中村直人（ラグビー 日本代表）、中村芳道（京都障害者スポーツ振興会）、中山博貴（京都サンガ普及部コーチ）、成田崇矢（水泳・飛び込み オリンピック代表トレーナー）、新居平康（ゴールボール 指導者・国際審判員）、西家道代（シットティングバレーボール パラリンピアン）、西谷善子（日本スポーツクライミングユース代表ヘッドコーチ）、西村拓也（バスケットボール日本代表マネージャー）、西山麗（ソフトボール オリンピアン）、根木慎志（車いすバスケットボール パラリンピアン）、萩井昇（陸上競技 日本パラリンピック出場）、菅井翔太（水球 オリンピアン）、比護信子（陸上競技 日本代表）、平木新助（京都ボッチャ協会）、平松祐司（陸上競技）、藤田信之（陸上競技 指導者）、藤田慶和（ラグビー 日本代表）、細川浩三（京都サンガ強化本部長）、堀井聡太（デフサッカー 日本代表）、堀川謙一（プロボクシング）、堀越信司（陸上競技 パラリンピアン）、真砂勇介（プロ野球）、馬島誠（パラアイススレッジホッケー パラリンピアン）、俣野斗亜（ブレイキン選手）、松山博明（大阪成蹊大学准教授 スポーツマネジメント）、三村和人（レスリング 指導者）、宮下純一（水泳・競泳 オリンピアン）、宮本涼平（車いすバスケットボール）、望月聡（サッカー オリンピック代表コーチ）、森卓也（陸上競技 アジアパラリンピック大会日本代表）、森田美千代（京都障害者スポーツ振興会副会長）、八木かなえ（ウエイトリフティング オリンピアン）、安井一彦（車いすフェンシング 日本代表）、八橋龍二（車いすバスケットボール）、柳田昌彦（同志社大学教授 スポーツ健康科学）、山口有希（陸上競技 オリンピアン）、山崎晃裕（陸上競技やり投げ パラリンピアン）、山田秋親（野球 オリンピアン）、山田拓朗（水泳・競泳 パラリンピアン）、山田幸代（ラクロス プロプレーヤー）、山西利和（陸上競技 オリンピアン）、山本篤（陸上競技・スノーボード パラリンピアン）、山本恵理（パラパワーリフティング 日本記録保持者）、山本英嗣（車いすバスケットボール）、山本慎吾（陸上競技 小学生 100m 記録保持者）、吉川 友巳奈（ソフトテニス女子日本代表トレーナー）、與那嶺惠理（自転車 オリンピアン）、LAKE SHIGA（車いすバスケットボールチーム）、脇本昌樹（日本オリンピック委員会マーケティング担当）、和田伸也（陸上競技 パラリンピアン）

〈 本府の発行物（リーフレット） 〉

平成27年度



平成28年度



平成29年度



平成30年度



令和元年度



令和2年度



これまでの年度ごとの活動を取りまとめたリーフレットを京都府教育委員会保健体育課ホームページに掲載しています。

平成27年度～令和 3 年度
京都府オリンピック・パラリンピック教育推進事業

ACTION & LEGACY

～ 7 年間のあゆみ 〈事例報告書〉 ～

発 行／令和 4 年 2 月

発行者／京都府教育委員会

編 集／京都府教育庁指導部保健体育課